

梅原猛 生誕100年



梅原猛氏



うめはら・けんいちろう 1925年京都市生まれ。京都大学文学部哲学科卒。京都大学文学部研究科博士課程修了。専攻は芸術学・美学。京都造形芸術大、現・京都芸術大、助教授。滋賀県立大教授を経て京都芸術大教授を務めた。主な著書に「カミの現象学」身体から見た日本文化論(角川書房)、「感覚のレッスン」(角川学芸出版)、「肉彩」(魚潮社)、「洗濯屋さん道元」(七月堂)など。

「ついでに。特定の書齋はなんでも座つたらそが書齋。周りの騒音も気にせず、まるで、父だけ「檻」で囲われ、異なる時空に生息しているようでした。そんな父を京都という風土は温かく包み込んでくれた。「猛獣」が時に「檻」から咆哮することがあっても、東山三十六峰の山々は、神の声となって、仏の声となって、絶妙な声を投げ返した。晩年に「草木国土悉皆成仏」という

思想つむいだこの地から

「猛さんは晩年、西洋の思想に基づいて近代合理主義や人間中心主義を超越するために「人類哲学」を提唱しました。梅原 父が亡くなってから、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻、AIの飛躍的な

進展など、世界が劇的に変化しました。父が生きていたとすれば、どんな発言をしたであろうと思う時があります。環境問題、少子化、格差問題が山積みです。文明の行き詰まりというのか、思考の基礎の枠組み、知の在り方そのものが問われている。父は晩年に「人類哲学」を提唱しました。地球規模の哲学への挑戦だったと思います。

そして、東洋の思想的資源を大胆に読み解き、新たな知の枠組みを構築する。「大乗仏教の帯」のように寺院が齋をなびかせる東山の麓の地で、ぜひ挑戦したい。土地に埋まる思想的な「カイン」を讀み直し、編集し直し、新たな知の在り方への手がかりにする。しんめいPさんの著書も、大きくは、そうした試みの一つであると言えます。

梅原 「声」は必ずしも人間だけじゃない。森羅万象が「声」を持っている。しんめいP さあ、ですね。環境問題も人間と自然の分断とも言えます。最近の兵庫県知事選やアメリカ大統領選でも顕著ですが、以前から原発やワクチンを巡って意見が分断化されています。ロシアでは互いに中間地点がない。でも本当は話し合える余地がある。それをしなければならぬ段階をいよいよ迎えている。哲学「言」と「高踏的」で宙に浮いたものを捉えがらです。実社会に生きるものだと思います。「人類哲学」という大きな枠組みの中で、2050年代以降の時代をつくりたい。世帯が社会を変えていく。梅原先生が思想をむいたこの場所から、ついでに「お手伝い」をしたい。梅原 地名にならぬ。「若王」学派の「おまの」を築いていくことが梅原の魂を継ぐことになる。

「猛さんは晩年、西洋の思想に基づいて近代合理主義や人間中心主義を超越するために「人類哲学」を提唱しました。梅原 父が亡くなってから、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻、AIの飛躍的な

進展など、世界が劇的に変化しました。父が生きていたとすれば、どんな発言をしたであろうと思う時があります。環境問題、少子化、格差問題が山積みです。文明の行き詰まりというのか、思考の基礎の枠組み、知の在り方そのものが問われている。父は晩年に「人類哲学」を提唱しました。地球規模の哲学への挑戦だったと思います。

そして、東洋の思想的資源を大胆に読み解き、新たな知の枠組みを構築する。「大乗仏教の帯」のように寺院が齋をなびかせる東山の麓の地で、ぜひ挑戦したい。土地に埋まる思想的な「カイン」を讀み直し、編集し直し、新たな知の在り方への手がかりにする。しんめいPさんの著書も、大きくは、そうした試みの一つであると言えます。

梅原 「声」は必ずしも人間だけじゃない。森羅万象が「声」を持っている。しんめいP さあ、ですね。環境問題も人間と自然の分断とも言えます。最近の兵庫県知事選やアメリカ大統領選でも顕著ですが、以前から原発やワクチンを巡って意見が分断化されています。ロシアでは互いに中間地点がない。でも本当は話し合える余地がある。それをしなければならぬ段階をいよいよ迎えている。哲学「言」と「高踏的」で宙に浮いたものを捉えがらです。実社会に生きるものだと思います。「人類哲学」という大きな枠組みの中で、2050年代以降の時代をつくりたい。世帯が社会を変えていく。梅原先生が思想をむいたこの場所から、ついでに「お手伝い」をしたい。梅原 地名にならぬ。「若王」学派の「おまの」を築いていくことが梅原の魂を継ぐことになる。



デジタルメディア「THE KYOTO」では写真も充実した詳細を公開しています

哲学者・梅原猛と“昭和100年”

梅原猛の軌跡	1925(大正14)年	社会の主な出来事
宮城県仙台市で誕生	1925(大正14)年	治安維持法と普通選挙法が公布
母が結核で死去	26(大正15,昭和元年)	昭和天皇即位
4月、京大文学部哲学科に入学。同月、日本陸軍野砲兵第216連隊に入営。9月、京大に復学	45(昭和20)年	3月、太平洋戦争で東京大空襲。8月6日、広島に原爆投下。同9日、長崎に原爆投下。同15日、終戦。玉音放送
京大文学部哲学科を卒業	48(昭和23)年	東京裁判で東条英機らA級戦犯に死刑宣告。太宰治が入水自殺
稲垣ふさと見合い結婚。長女ひまり誕生	51(昭和26)年	サンフランシスコ平和条約調印。日米安全保障条約調印
龍谷大専任講師になる	52(昭和27)年	日本が独立回復。美空ひばりの「リンゴ追分」ヒット
立命館大非常勤講師に。長男賢一郎誕生	53(昭和28)年	NHKテレビ放送開始
立命館大助教授になる	57(昭和32)年	日本観測隊が南極大陸上陸。世界初の人工衛星・ソ連スプートニク1号打ち上げ
『仏像一心とかたち』で毎日出版文化賞	65(昭和40)年	日韓基本条約調印。ベトナム戦争本格化
立命館大教授に。『地獄の思想-日本精神の一系譜』刊行	67(昭和42)年	公害対策基本法公布。第3次中東戦争
京都市立芸術大教授に。『隠された十字架-法隆寺論』(新潮社)刊行。同書で毎日出版文化賞	70(昭和45)年	大阪万博。三島由紀夫が陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地で自決
『水底の歌-柿本人麿論』(新潮社)を刊行	72(昭和47)年	高松塚古墳で装飾壁画発見。沖縄の施政権返還
京都市立芸術大の山科移転計画破綻に伴い、反対派リーダーとして学長に選出。京都市議会で移転問題を熟弁する。『水底の歌』で第1回大佛次郎賞	73(昭和48)年	第一次石油危機
スーパー歌舞伎『ヤマトタケル』初演。京都市立芸術大学長を辞任し、国際日本文化研究センター(日文研、西京区)の創設準備室長に就任	74(昭和49)年	コリケラー来日で超能力ブーム。三益重工業ビル爆破事件。巨人の長嶋茂雄選手引退。佐藤栄作元首相にノーベル平和賞
日文研が発足。初代所長に就任	86(昭和61)年	ハレー彗星が大接近。パブル景気始まる
内閣の諮問機関「21世紀へ向けて目指すべき社会を考える懇談会」座長に就任。翌年、同諮問機関「臨時脳死及び臓器移植調査会」委員に	87(昭和62)年	石原裕次郎死去。マイケル・ジャクソン来日
日文研所長を退任、顧問に	89(昭和64,平成元年)	昭和天皇崩御、「平成」に改元。消費税(3%)導入。中国で天安門事件。美空ひばり死去。「ベルリンの壁」崩壊。三菱地所が米ニューヨークのロックフェラー・センターを買収
第13代日本ベンクラブ会長に就任	94(平成6)年	作家・大江健三郎さんにノーベル文学賞
井上靖文化賞受賞	95(平成7)年	阪神大震災発生。地下鉄サリン事件
文化勲章受章	97(平成9)年	消費税5%に。アイヌ文化振興法成立
ものづくり大の初代総長に就任	98(平成10)年	小渕恵三内閣成立
「東日本大震災復興構想会議」特別顧問に	99(平成11)年	国旗・国歌法成立
スーパー能「世阿弥」国立能楽堂で初演。『人類哲学序説』(岩波新書)刊行	2001(平成13)年	米で同時多発テロ
1月12日、肺炎のため自宅に死去	2011(平成23)年	東日本大震災発生
	2013(平成25)年	「アベノミクス」始動。特定秘密保護法が成立
	2019(平成31,令和元年)	平成の天皇陛下が退位され、「令和」に
	2020(令和2)年	コロナ禍で緊急事態宣言
	2021(令和3)年	東京五輪開催
	2022(令和4)年	ロシア、ウクライナに侵攻
	2023(令和5)年	作家・大江健三郎さん死去
	2024(令和6)年	パリ五輪開催

※「梅原猛先生追悼集-天翔ける心」(日文研)など参照。左列の写真は梅原賢一郎さんから提供